

2015年5月21日

三菱重工グループと印マヒンドラ&マヒンドラ社が、農業機械分野での戦略的協業で合意
三菱農機のグローバル事業を強化

三菱重工業株式会社（以下、三菱重工）と、印マヒンドラ&マヒンドラ社（以下、M&M社）は、農業機械分野における戦略的協業で合意し、本日、農機事業を運営する三菱重工の100%グループ会社である三菱農機株式会社（以下、三菱農機）を含む3社間により、株主間契約書および新株引受契約書に調印しました。M&M社による三菱農機への資本参加のほか、三菱農機によるM&M社米国子会社向けOEM供給の拡大や、両社の共同購買などにより、日本の技術も活かしながら、グローバル市場における両社それぞれの事業の拡大・強化を実現します。

今回の合意を受け、三菱農機は第三者割当増資を実施、本年10月1日の予定でM&M社が同社株式の33%を取得します。

国内の農業機械市場の漸減傾向が続くなか、三菱農機は、三菱重工傘下での構造改革を進めていますが、今後のさらなる事業拡大・強化のためには、国内市場に加え、グローバル市場への進出拡大も必要となっています。一方、M&M社においても、アジアなどでの需要拡大への対応が課題となっており、両社のパートナーシップ強化によりWIN-WINの関係が構築できると判断し、本日、合意に至ったものです。

M&M社は、1945年にインドで創業、自動車・二輪車・トラクターの設計・製造を手がけ、それらの製品の世界的な販売網を持つ複合企業です。特に、トラクターの生産台数は世界トップを誇り、販売台数も26万台となっています。メーカーとして品質面の評価も高く、2007年には、一般財団法人日本科学技術連盟より、日本品質管理賞（現、デミング賞大賞）を受賞するなど、世界トップレベルの品質管理能力を有しています。

三菱農機はM&M社に対し、2003年より同社の米国子会社Mahindra USA社向けにトラクターのOEM供給を継続しているほか、歩行式田植機に関する技術供与などの協力関係を通じて、両社ともお互いの社風を理解し、信頼関係を築いています。今後、両社によるプロジェクトチームを設立、両社協調による効率的なサプライチェーンの構築や、より魅力と競争力のある製品づくりを目指した活動を展開します。

今回のパートナーシップ構築により、三菱農機はグローバル市場への進出加速と、使用環境が厳しいインド市場で培われたM&M社の技術も使い、今後日本国内でも増加が見込まれる農業生産法人向け、および低コスト農機などの品揃えにより、従来以上に日本国内のお客様ニ

ズに対応できる体制を整えていきます。また、M&M社は、今後アジアを中心に需要増加が見込まれる田植機や収穫機などを製品ラインアップに加え、三菱農機とともに、日本式農業の普及を促し、お客様の生産性向上と、世界の持続的発展に貢献していきます。

以 上